

機嫌の悪い母を
幸福にさせた息子



桃尻ハッスル堂

登場人物

息子：
春太郎(はるたろう)

母親が大好き。



母：今日子 40歳

このところ
ずっとイライラ
しっぱなし。
実は空手の
有段者。
人をぶん殴ると
落ち着く。



父：50歳

EDで全く勃たない。
嫌なことがあると
すぐに逃げる



はあ？
まだ出張の
延長？

あなたの
会社
ひどくない？

いつまで
出張
させられてるの？



これで
連続
3回よ



ほんとは
私のこと
さけて
会社に
お願い
してるんじや
ないの？

そそそ
そんな訳
ないだろ



早く学校に行く！
食べたら



はい

がら



この数か月
母は
とても
機嫌が悪い



少しでも
気に入らない
ことがあると

怒鳴られて
訳の分からない
説教をされる

地獄だ



毎日毎日
たまらんなあ

以前はとても
優しい人
だったのに

今は
まともに話が
できる状態に
ない

た。た。た。



2日後

これ以上
母さんの
プレッシャーには
耐えられない
そこで

知
り
ま
す

一か八か
母さんの
機嫌を
直す方法

俺は
ある計画を
実行することに
した

それは
母さんの怒りを
ピークに
もっていく
ことだ

わざと間違えて
テストの点数を
ひどいものに
した

いつも悪いが
今回は
特にひどい

それを
すぐにバレる
場所に隠した

そしてすぐに
バレた



何で
隠してた？

母さん
そういうのが
一番嫌いって
知ってるだろ







そんなに
怒らないでよ

シワが
増えるよ



へいへい

許して
くださしゃい



ソファに
座ってないで

立って
反省しなさい

母さんを
完全に
キレさせる事に
成功した

ピキーン

実は過去
不機嫌な母さんを
わざとキレさせて
ビンタされた
ことがある

その時
すぐに母さんは
我に戻り
謝ってくれた

そして
平穏な日々
になった

しかし今回のキレ方は
その時のものと違う

俺も多少は
鍛えているので
耐える自信はあるが

殺気の
レベルが
違いすぎる

今回は
やばいかも

ギィゅっ

どろろ





とか
考えている
間に

パンチが
とんできた



空手をやっていた
母さんの
本気のパンチは
恐ろしい
威力だった



これだけで
意識が
もうろうと
なった

ゆらっ

腹部への
膝蹴り

綺麗に
きまった

ぐんっ

息が
できない

今回の
怒りは
本物

予想以上
だ

と
思った矢先





ハイスピードの
アッパァー

まともに
入ってしまった



俺は
吹っ飛ばされて
壁に頭を
打ち付けた



俺は
吹っ飛ばされて

やっぱり
空手の
有段者は
凄い

そこには
勝ち誇った
女王様が
仁王立ちしていた

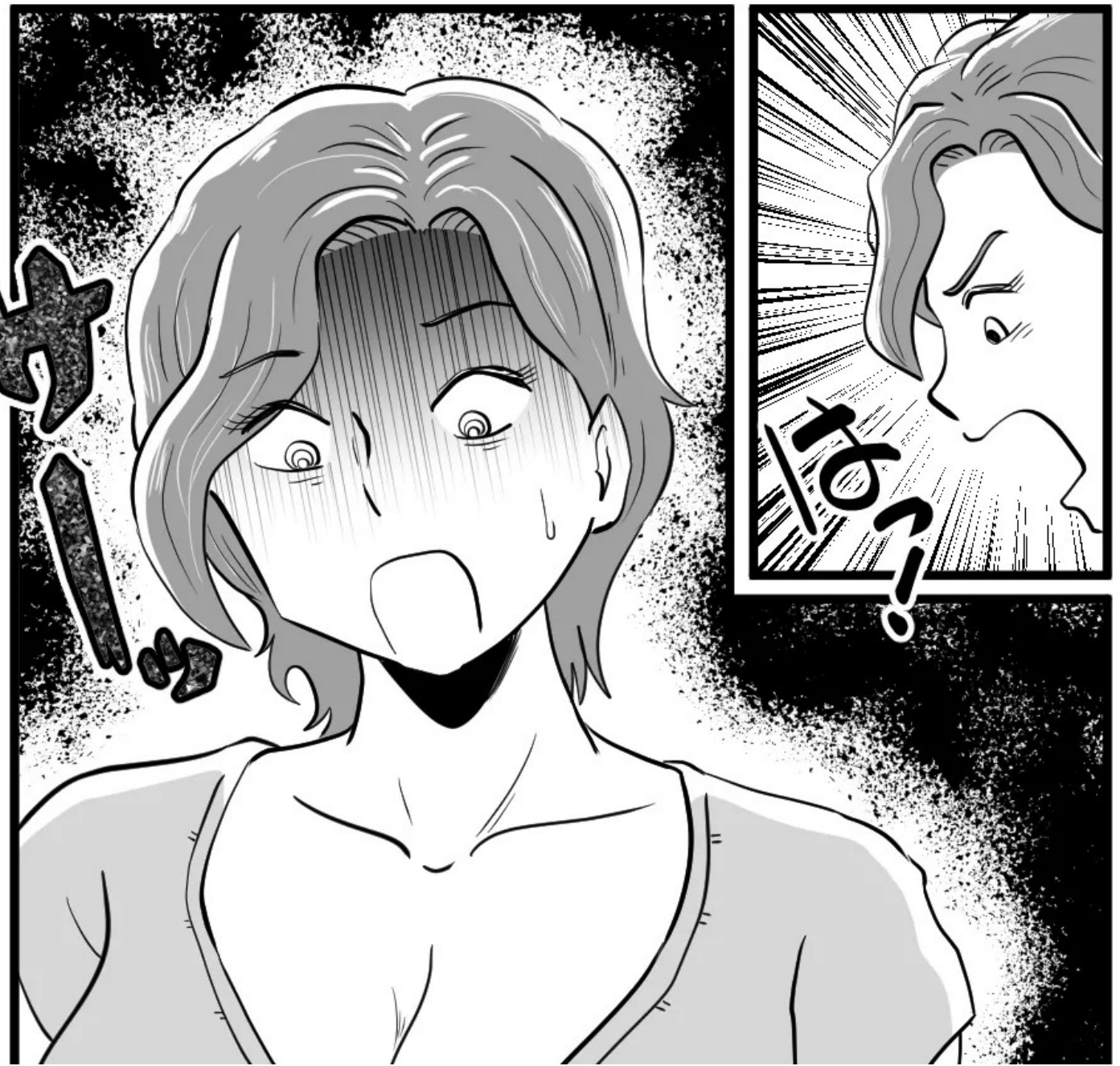
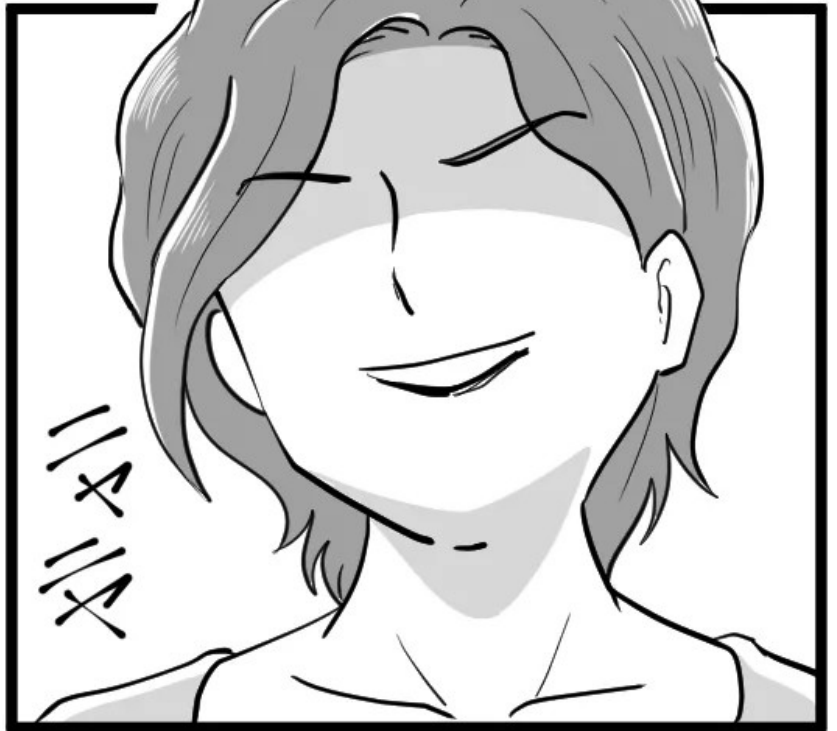
はあ
はあ
はあ
はあ

これまでの
イライラを
払拭できたかの
ようだった





俺は
本当に
意識を失った





春太郎
ごめん
ゆるして

死なないで
お願い

起きて！

ん？
あれ
ここは？

そうか
母さんの
アッパーが
まともに
入って
気絶したんだ
っけ

よかった
気がついた

ここは
母さんの
寝室か

さっきは
ごめんね

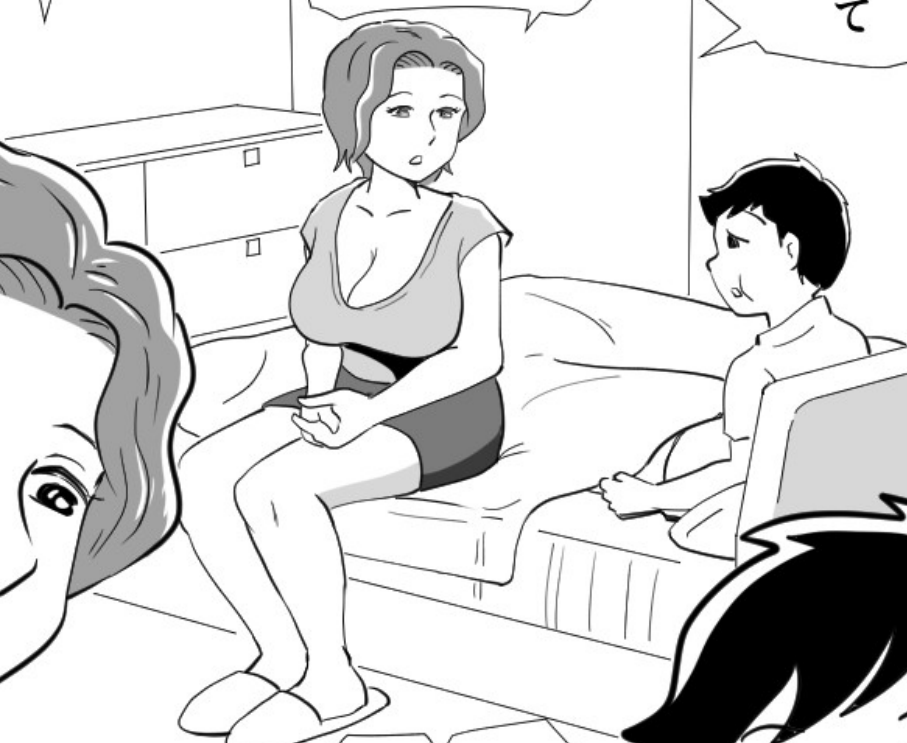
母さん
怒りにまかせて
身体が
動いちゃった

でも
春太郎は
私を正気に
戻すために
頑張って
くれたんだね

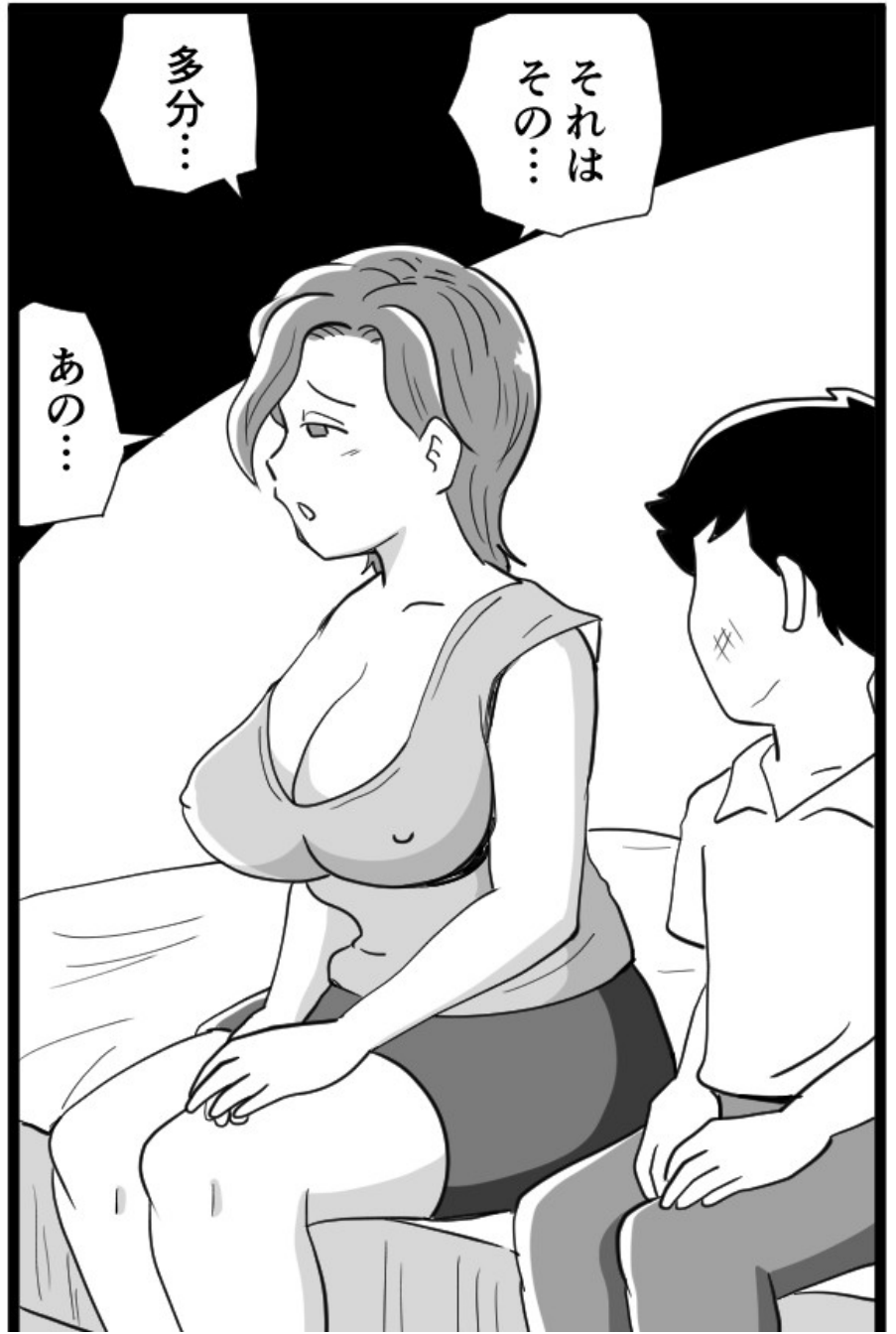
けど
ああいう
やり方は
もう
しないでね

あなたを
傷つけたく
ないから

うん
わかった
もうしない









私はある日
些細なことで
ひどいキレ方を
してしまった

その表情
やめてよ
まるで
私が
虐めてる
みたいじゃない

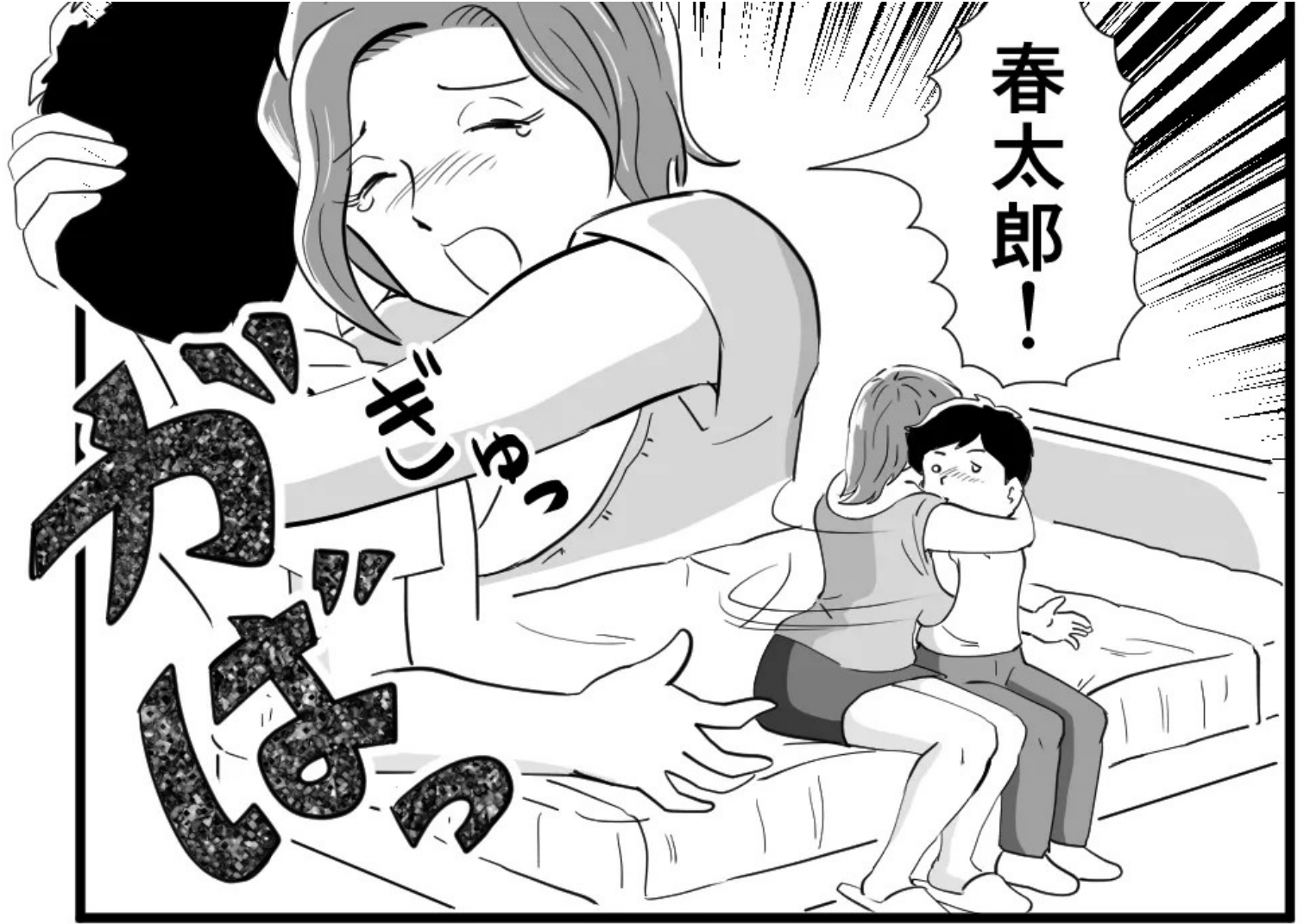
加齢臭
なんとか
してよ
臭いのよ

もっと
しゃきしゃき
歩きなさいよ
ジジイみたいよ

我慢してた
ものが
一気に
噴出して
止まらなく
なった







春太郎！

ぎゅっ

ばっ



見つめ
合った



大きな胸を
押し付けられ

むにゅっ

母さんの目は
潤み
まくっていた

さっきさ
俺で
できることなら
何でもするって
言ったよね

じゃあ
私が何を
しても
怒らない？

キスを
された

んっ
♡

うん

俺は母さんが
女として
好きなんだ

怒るなんて
とんでもない

こんなことに
なるなんて
夢のようだ

むにゅっ

心臓がバクバク
している



俺にとって
初めてのの
キスだ

経験したことが
ないぐらい
興奮している

母さんと
見つめ合い



母さんは
激しく舌を
からませて
きた





突然
母さんは
後ろに倒れた

どきどき



いや
絶対
言ってる

と
言ってる
ようだった

わかるよね
春太郎

わかるでしょ
春太郎



母さんを
失望させては
いけない

ここで
いかないと
男じゃ
ないよな

息子だけど

母さんが
自分で
服をずらし

胸を
出して
くれた



なんと
いう
大きな
胸

乳首の
色も
きれい
だ

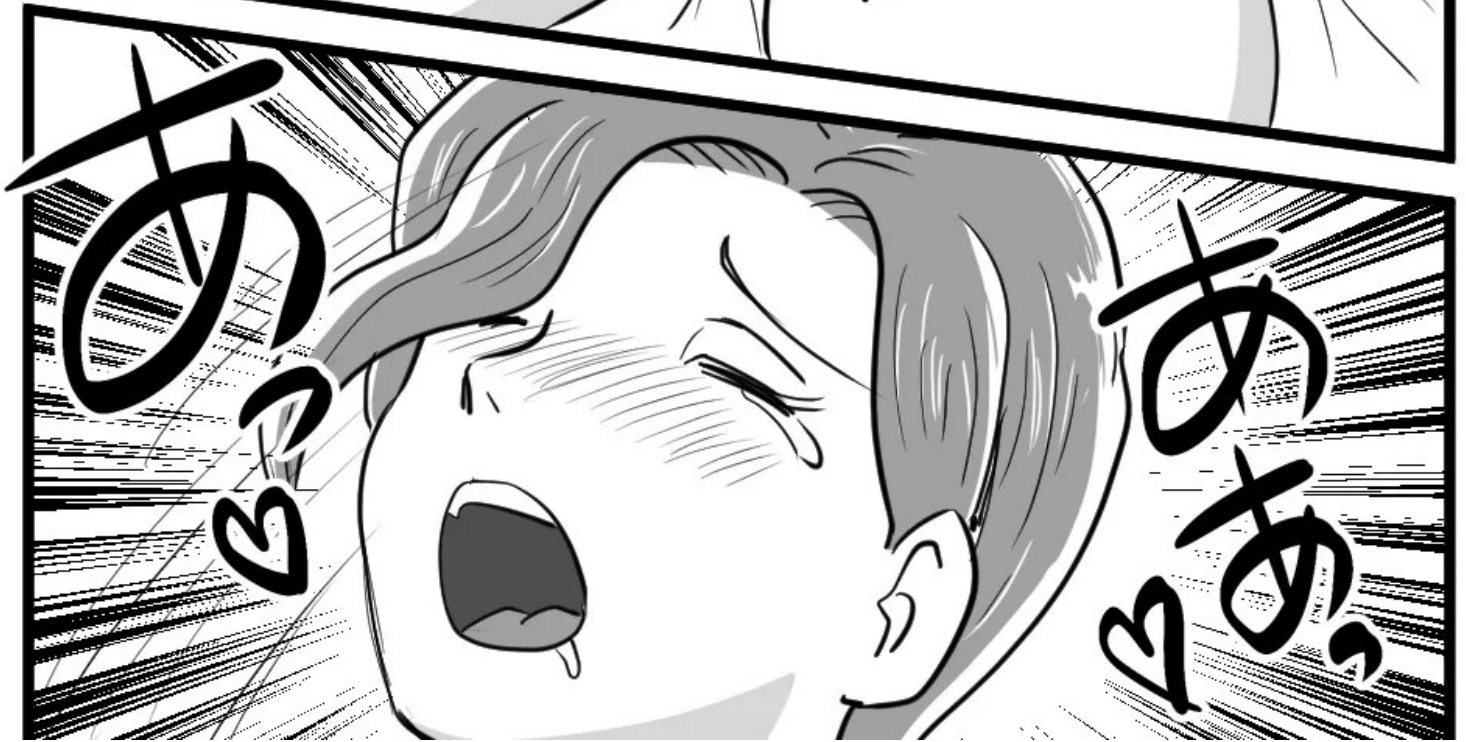
こんな
もん
いく
しか
ない
だろ！

やるぞ
やって
やる



乳首を舐め
さわると
母さんは
よがった

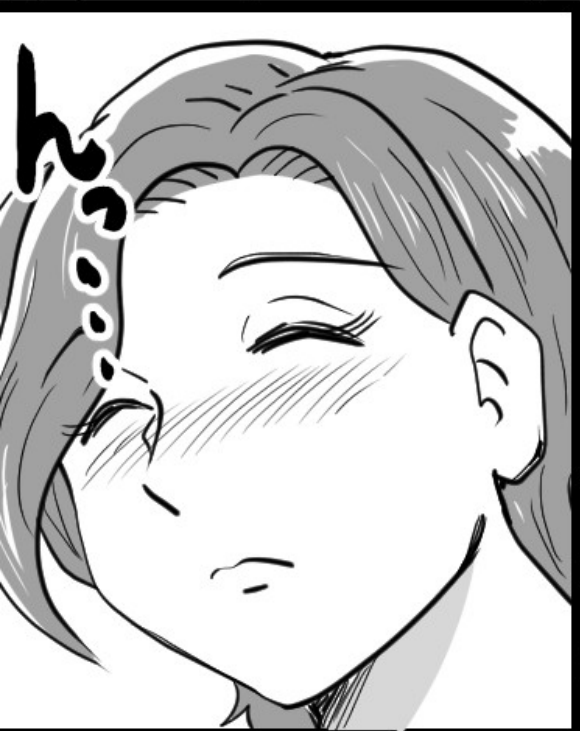
2人とも
息遣いが
激しくなった



そして
パンティを

ふん

ふん



おろした

すする
すする

初めて触る
女の股間

ちゃんと
割れている

そして
想像以上に
濡れている



はあ
はあ

はあ

ちゅぽ
ちゅぽ

くろ
くろ

ぶん

ぬちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぬちゅ

中指を
穴にいれ
ゆっくり
動かした

ぬちゅ

じゅぼ

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

はあ

んんん
はあ

ひだが
指に
絡みつ
いて

きゅん

きゅん

ぬちゅ

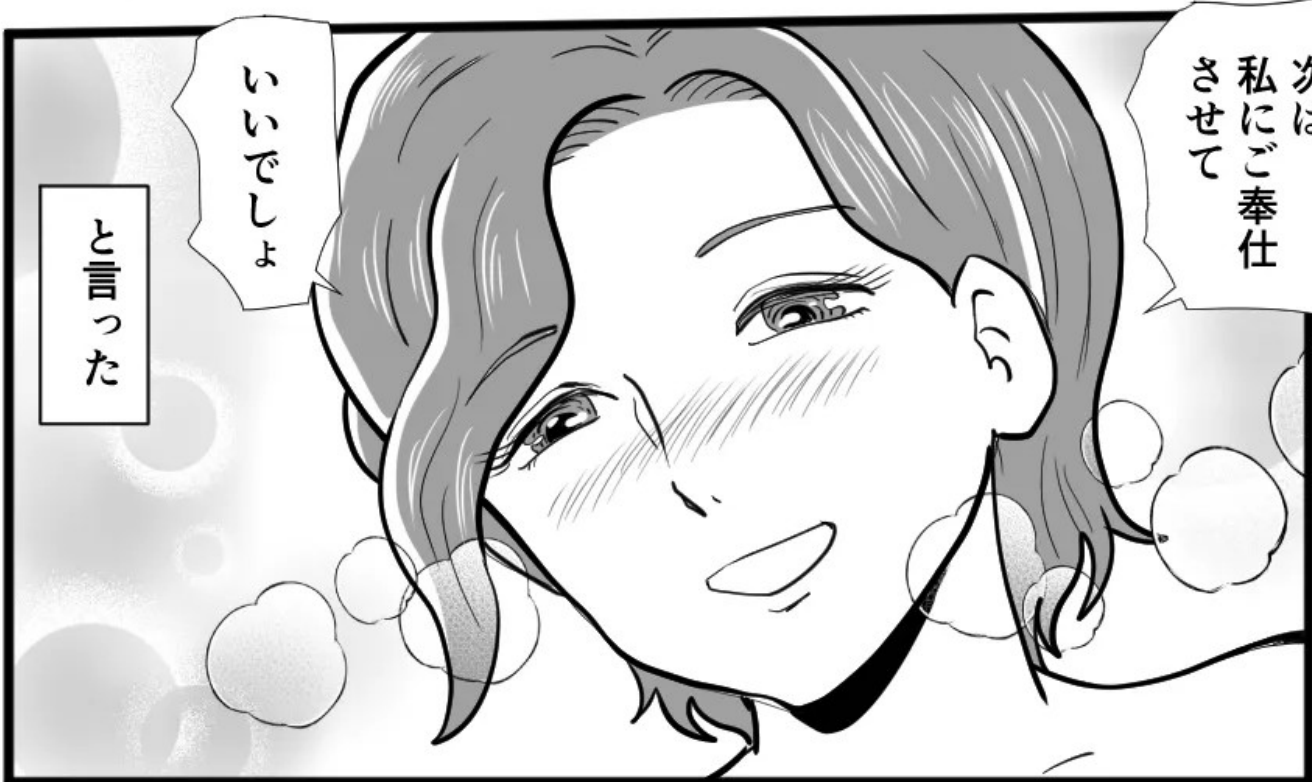
ぬちゅ

こんな穴に
ちんぽ
いれたら
どうなるんだ

絶対
気持ち
いい
穴だ



母さんは
起き上がり
ほほ笑みながら



次は
私にご奉仕
させて

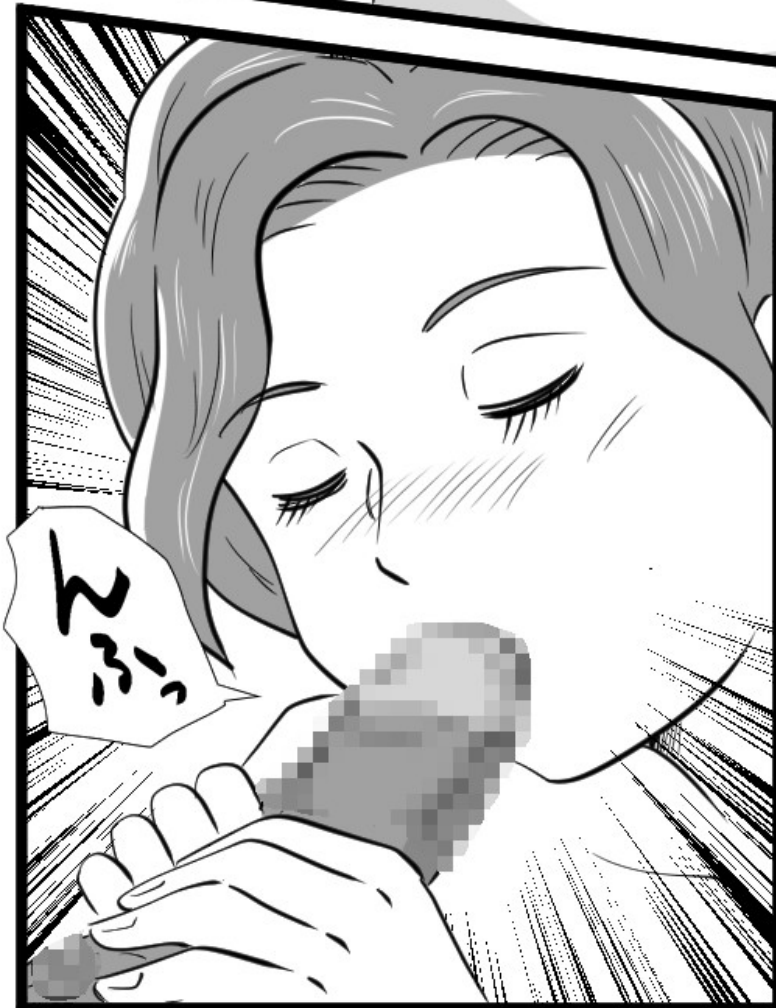
さすぽっよ

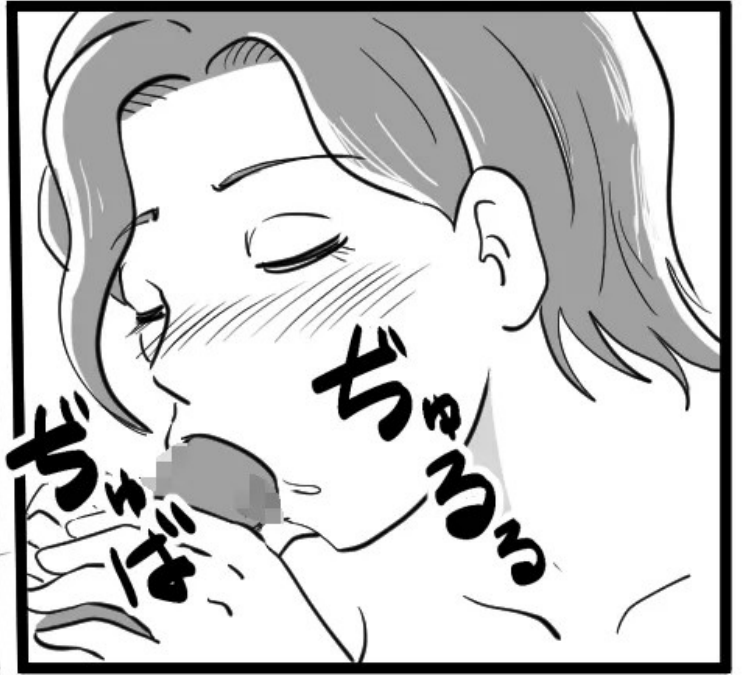
と言った

母さんが
俺のちんぽを
凝視している



春太郎のって
はちきれ
そうなららい
硬そう





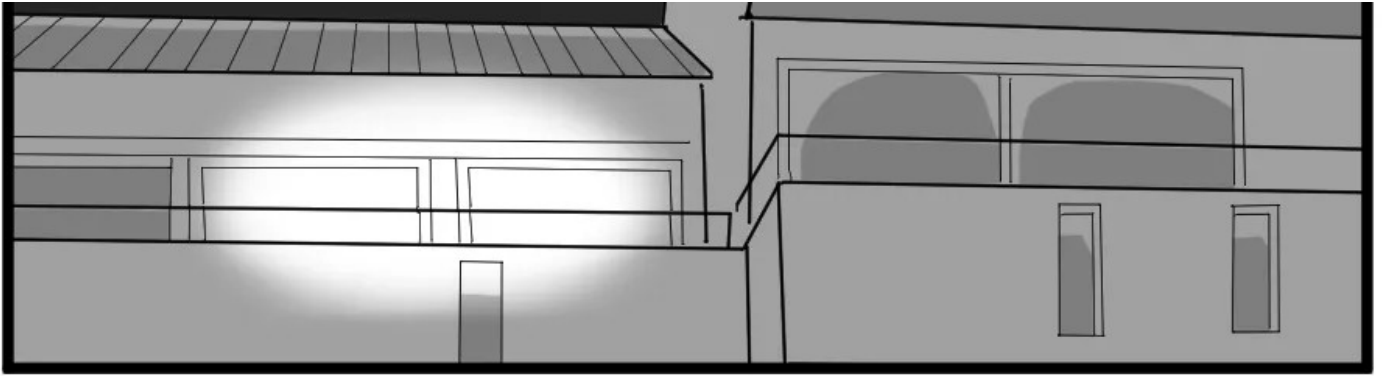
温かい母さんの
口の中

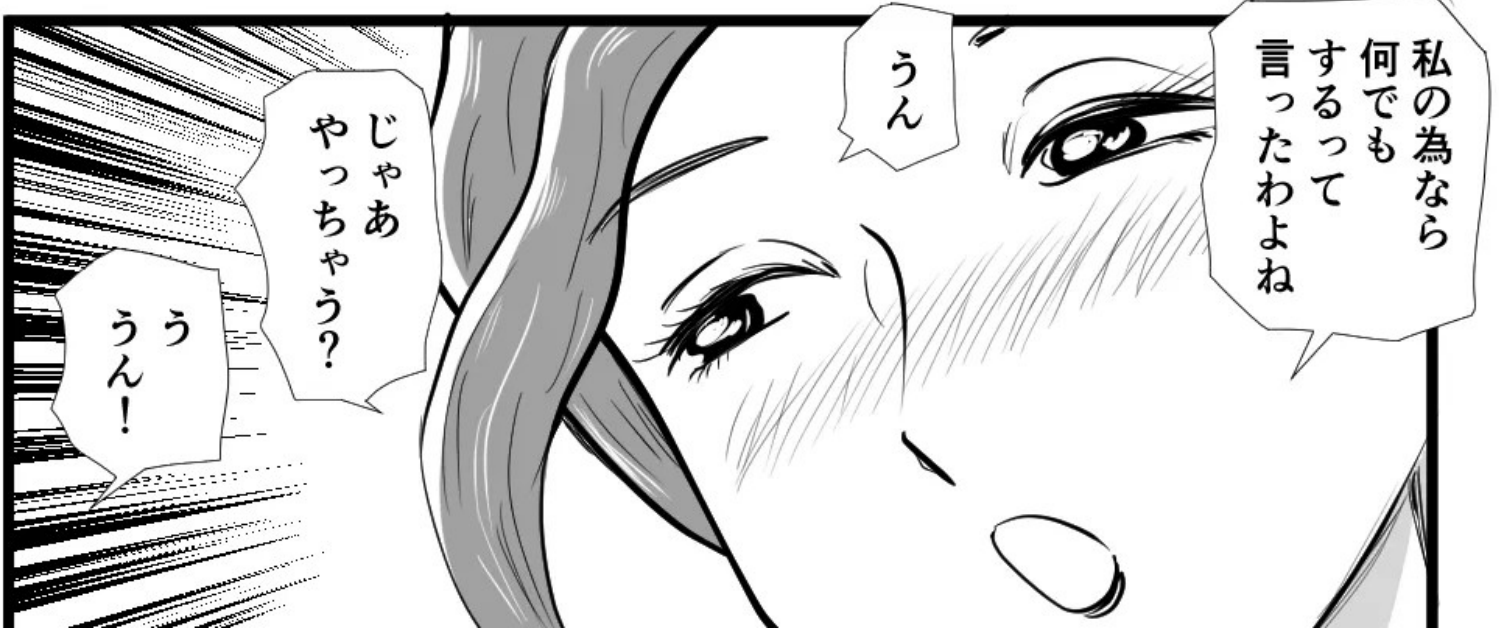
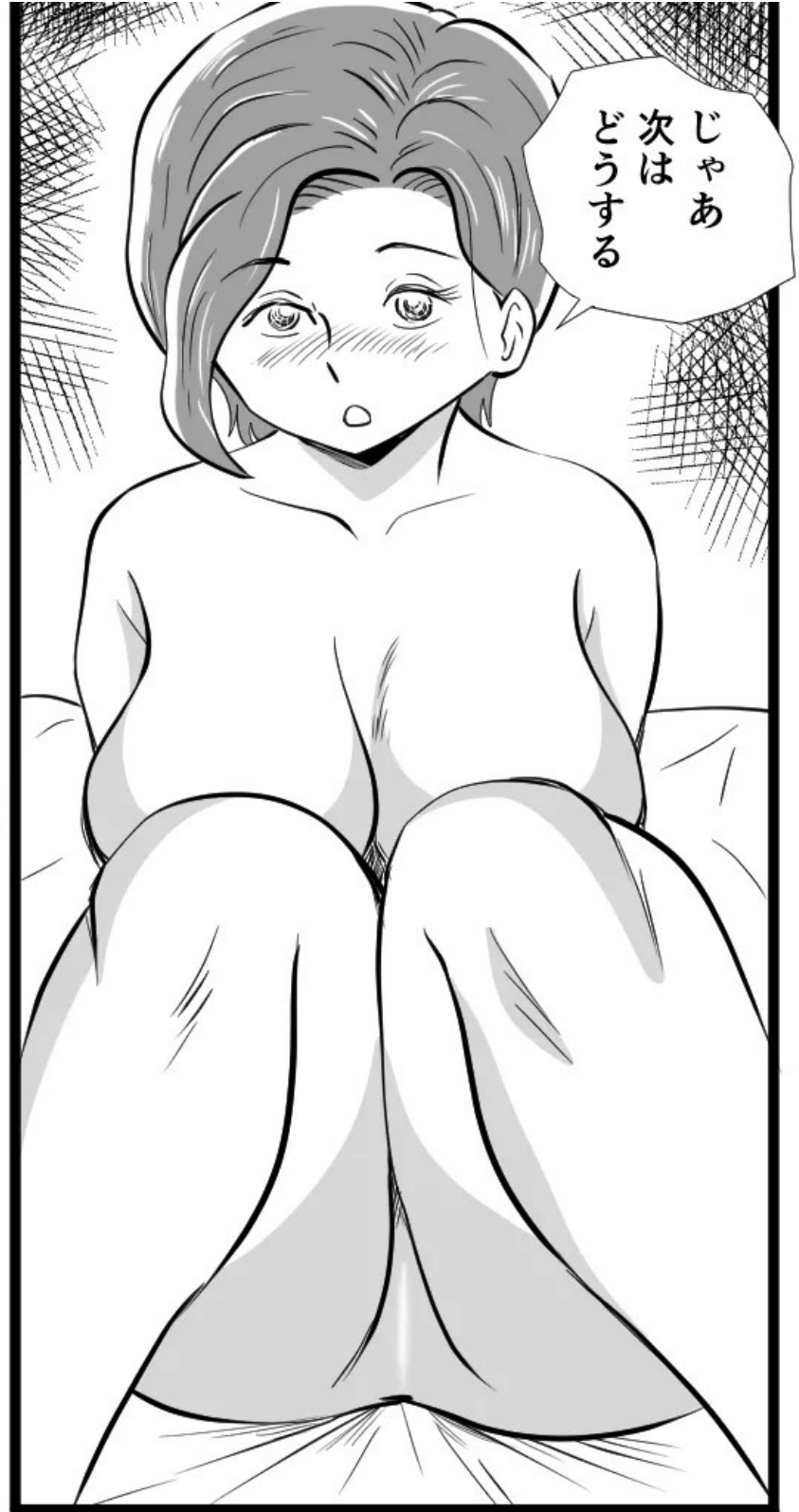
絶妙な
舌使い



興奮しすぎた
俺は
一瞬にして
果てた









ずずず

挿れさせて
もらった



ずっ

と
いうこと



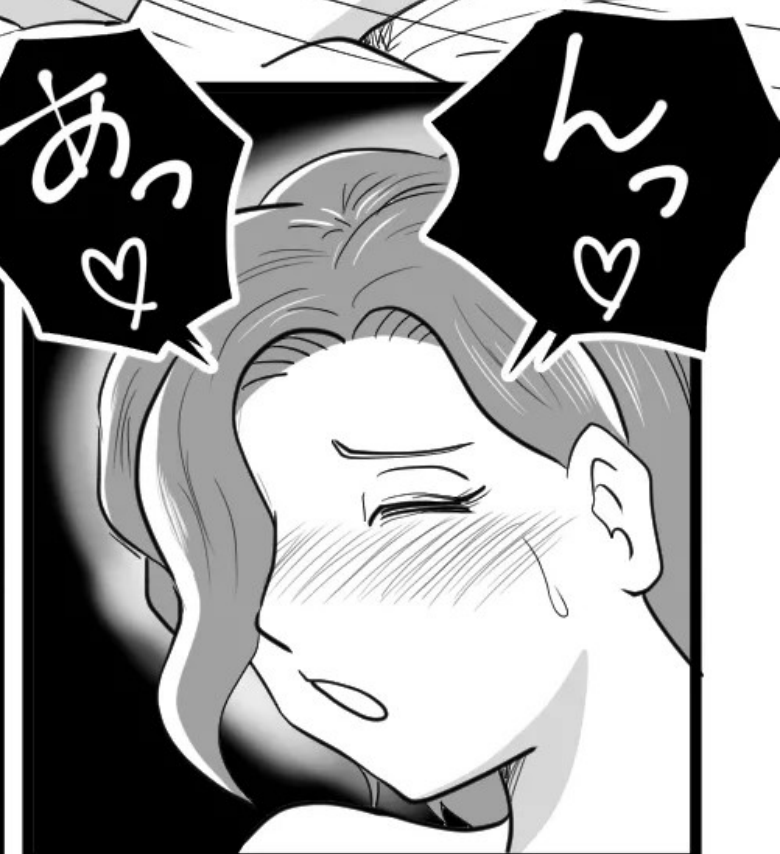
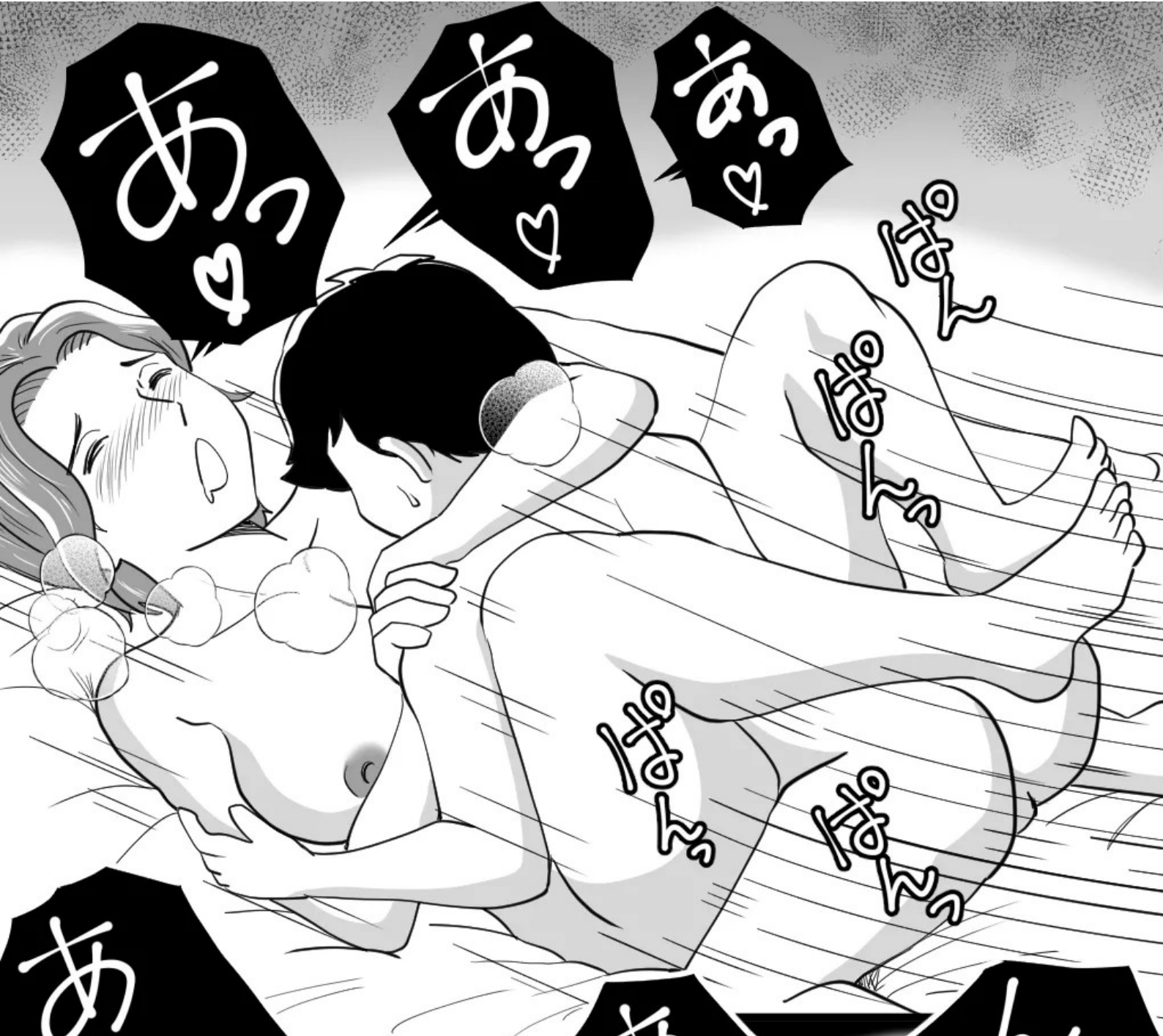
ああっ
大きい
硬い

久しぶりよ
こんなの

ぶるん

ぶるん

ガクン







びびっ

びびっ

びびっ

びびっ

びびっ

びびっ



金玉が
無くなるんじや
ないかと
思うほど
射精した



全部
母さんの穴に
放出



母さんの穴は
それを
全部受け止めて
くれた

そして
そのまま
もう一回



その日を境に
母さんの表情は
大きく変わった

お勉強
はかどってる？

うん

あんまり
根を詰めて
やっちゃだめよ

じゃあ
そろそろ
気分転換
しようか

そ
そうだね

毎日
こんな感じで
俺を
抱きしめてくれる
ようになった





親父は
相変わらず
出張の連続で
家に返ってこない

ごめん
また出張で
家に帰れないんだ



怒られずに
すんだ

ほっ



こっちは
大丈夫だから
気にしないで

ゆっさ
ゆっさ

お仕事
頑張っ
てね

ゆっさ

うん
ありがとう

ぶるっ

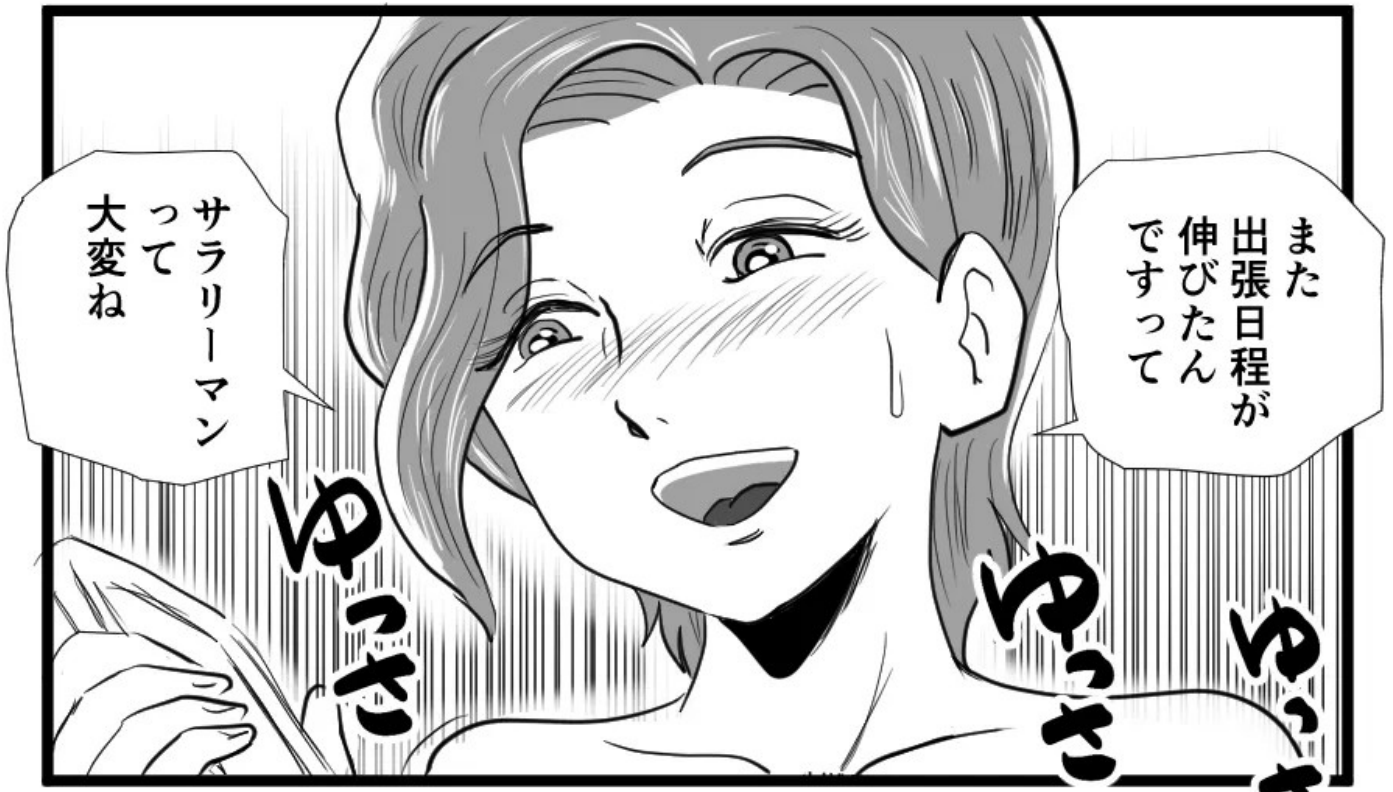
たふん

たふん



それにしても
えらく
機嫌が
よかったな

めずらしい



また出張日程が伸びたんですって

サラリーマンって大変ね

やっかい

やっかい

やっかい

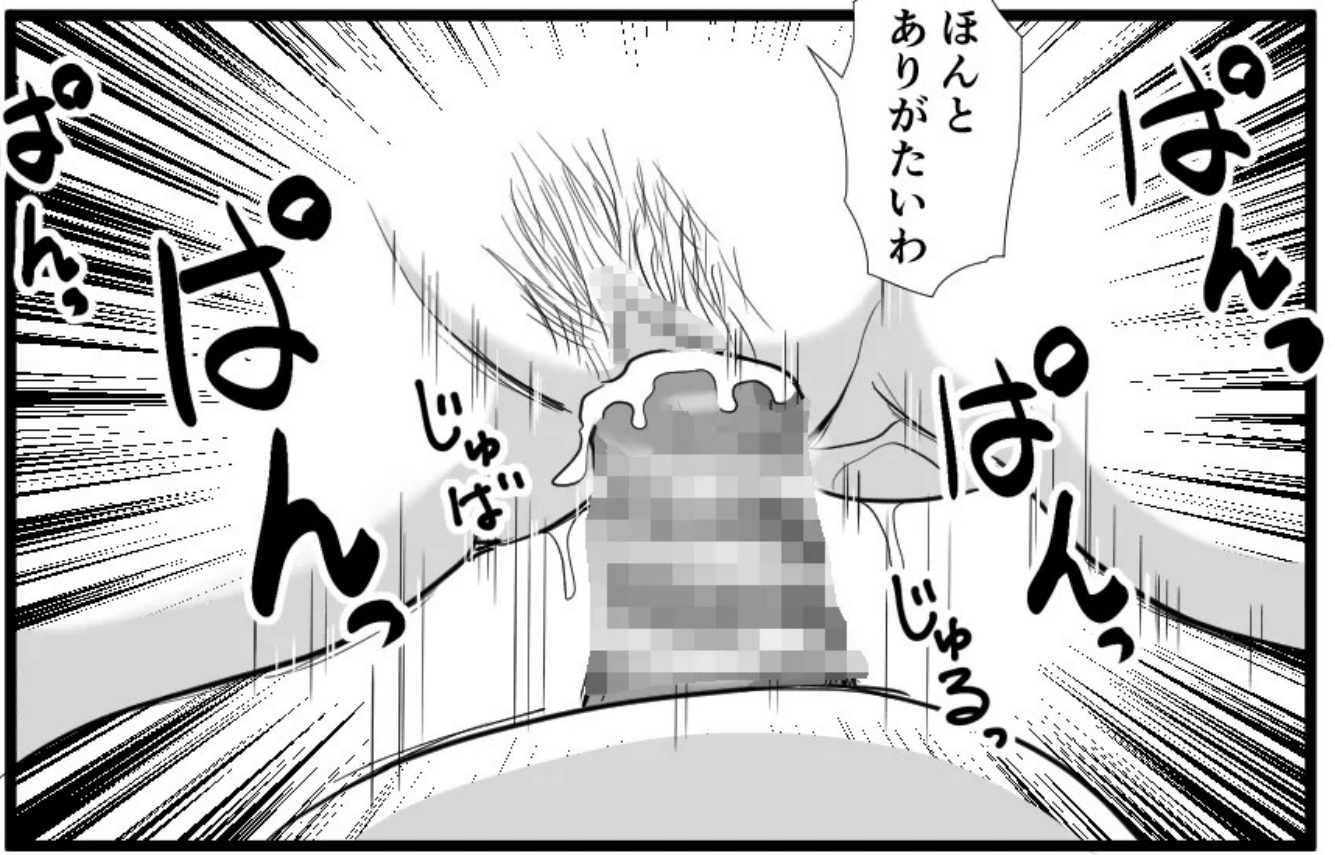


うん その分僕たちは楽しめる

はあ

はあ

はあ



ほんとありがたいわ

ほん

ほん

じゅる

じゅば

ほん

ほん

お買い上げありがとうございます



見て見て

凄いでしょ

私って
身体が
柔らかいんだよ

このまま
挿入
してみる？

かほっ

もちろん
挿入して
激しく
突きまくりました